

## ちょっと驚いた話 —マレーシアでの生活の中で—

田中 佳代

(浜松日本語学院日本語教師養成講座)

夜、リビングルームでひとりソファに座っていたときのこと、背後で不思議な物音がする。玄関や裏口は鉄格子がついた二重のドアだが、日本と比べればかなり広い、三階建てに地下まであるタウンハウスに住んでおり、死角も多い。主人は残業でまだ会社だ。恐々振り返ってみると、床のタイルがピキピキ音を立てて割れ始めている。

「???'」

見たことのない現象に目が点になる。亀裂が走るというのはこのことか…と感じ入りながらタイルが盛り上がっていくのを凝視してしまう。リビングだけで30平米はあるだろうか。どこまで広がるのだろうか…。

ちょうど翌日、ダイニングのライトが壊れて大家さんが来ることになっていたので、相談した。熱帯では気温が高いので接着剤が緩み、こういう現象はよく起こるらしい。この亀裂はだんだん縦横に広がって、最終的には床全体に広がるから、全て張り替える工事を手配するとのこと。

大判タイルとはいえ、軽く400枚以上はあるので、かなり大掛かりだわ、とため息が出る。それでも、2、3日で済むとのことだったので、手配をしてもらっ

た。

熱帯暮らしで驚いたのは、まずゴムが溶けること。輪ゴム程度ならよいが、ケーキドームの底にある4つのゴムの足の片側だけに朝日があたっていたようで、2本だけゴムが溶けて、ドームが傾いていたなどということもあった。

革製品は冷房を使わない部屋に置き放しだと、劣化して革の表面がボロボロになる。接着剤でいえば、ナイキのスニーカーの底は剥がれる（ちなみにアディダスやニューバランスは大丈夫）。これらは熱帯の気候のせいだ。

その他にも、電圧が高いためか電球がよく切れる。外の水道管につけるタイプの浄水器も、水圧に負けてよく壊れた。こういった物は、何十個買ったか記憶にないほどで、SDGs とは程遠い暮らしであったように思う。

(753 字)

(2022.6 たどくのひろば掲載)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.